

## 目的

- ◆ 急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

## 事業概要

- ◆ 国際化を進める国内の大学のほか、企業、国際機関等と連携して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール」に指定し、質の高いカリキュラムを開発・実践する。
- ◆ 委託事業：委託先（都道府県市教育委員会、国立大学法人、学校法人）
- ◆ 対象学校：国公立高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）、指定期間5年間
- ◆ 指定校数：継続11校（平成28年度指定11校：国1校・公8校・私2校）事業終了指定校112校
- ◆ 評価検証：事後評価56校（平成27年度指定）実施、事業検証実施
- ◆ 成果普及：全国高校生フォーラムの開催等

## 取組

- ✓ 英語等によるディスカッション、プレゼンテーション、論文作成、探究型学習、成果発表会等の実施
- ✓ 国内外の大学、海外の高校、企業や国際機関等と連携した国内外研修やフィールドワーク
- ✓ 英語等で指導する帰国・外国人教員等の派遣や、外国人留学生による英語等によるサポート

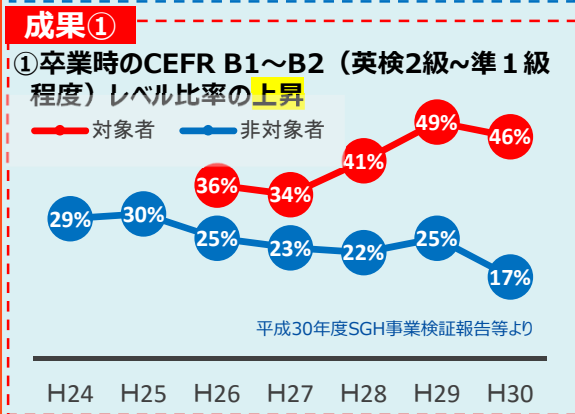
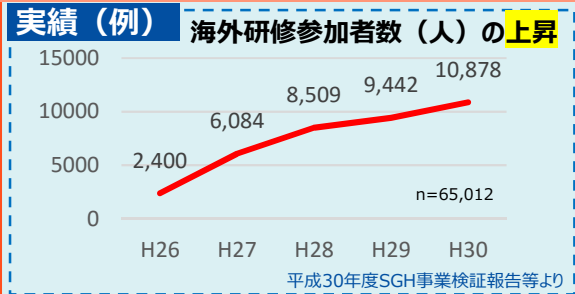


2018年度SGH全国高校生フォーラム  
(2018年12月15日)の東京国際フォーラム

## 実施体制



## 平成30年度事業検証 実績と成果の例



## 成果② 調査対象：平成26年度SGH指定校56校の研究開発後の卒業生協力者835名

- ②卒業生（SGH対象生徒）は、海外研修から学び、英語活用、視野拡大、大学生活で役立つ等という回答が多い。
- SGH対象生徒は非対象生徒に比べて、
- ✓ 大学進学基準として「提供するカリキュラムが魅力的である」ことを重視。
  - ✓ 「プレゼンテーション」「レポートのまとめ方」「調査データ収集・分析」等一般的な知識やスキル修得への評価が高い。
  - ✓ 「自分と異なる立場の価値観の尊重」「相手との協力関係の構築」コンピテンシー獲得の得点が高い。
  - ✓ 「外国の様々な異文化に触れることは楽しい」「様々な外国へ行ってみよう」というグローバルマインドセットの得点が高い。
  - ✓ 「海外研修が学びにつながった」「英語を使う機会が多くよかった」「視野が広がった」「SGHの学びが大学で役立っている」等の肯定的な意見が多い。
- 平成30年度SGH事業検証 卒業生アンケート調査結果より

## 成果③ ③卒業生の保護者、国内連携機関、海外連携校等のSGHへの満足度等が高い。

- ✓ 卒業生の保護者（613名）のうち、SGHの満足度76%の回答
  - ✓ 国内連携機関（84機関）からSGHのグローバル人材育成有用性89%の回答
  - ✓ 海外連携校（78機関）からSGH指定校との国際協働プログラムへの満足度96%、SGH指定校との国際協働が日本の高校生のグローバル教育に役立っている97%等の回答
- 平成30年度SGH事業検証 各アンケート調査結果より

★グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材（国際機関職員、社起業家、グローバル企業の経営者、政治家、研究者等）の輩出

★SGH事業開始5年を通して、グローバル人材育成プログラムの内容と運営の経験知、国内外のネットワーク等、有形無形のリソースが形成されている一方で通年の国際協働授業実施や教職員の国際化等の課題が指摘された。

# Society 5.0に向けたリーディング・プロジェクト WWL (ワールド・ワイド・ラーニング)

令和2年度予算額 151百万円  
(前年度予算額 113百万円)



文部科学省

## コンソーシアム構築支援事業

### 事業概要

これまでのスーパーグローバルハイスクール(SGH)の成果等を活用

- ◆ 将来、イノベティブなグローバル人材を育成するため、文理両方を学ぶ高校改革と高大接続改革を推進するリーディング・プロジェクト。
- ◆ 高等学校等と国内外の大学、企業、国際機関等が協働し、高校生に、より高度な学びを提供する仕組み「アドバンスト・ラーニング・ネットワーク」を構築。
- ◆ 「カリキュラム開発拠点校」においてグローバルな社会課題の解決等に向けた探究的な学びの研究開発や実践、関連する高校生国際会議を開催。
- ◆ 大学教育の先取り履修など、学年や学校を超えたより高度かつ多様な学びを生徒個人の興味・関心・特性に応じて履修可能とする高校生の学習プログラム／コースの環境を整備。



【高校生ESDシンポジウム】

#### ■委託事業の概要(令和2年4月現在)

- 委託先管理機関：都道府県・市教育委員会、国立学校法人、学校法人
- 委託期間：原則3年(3年目の評価に応じて延長可)
- 委託件数：16管理機関(R2新規6機関・R元継続10機関)
- 委託経費：年間900万円程度／件(カリキュラム開発拠点校を含むアドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成し、WWLコンソーシアムを構築)

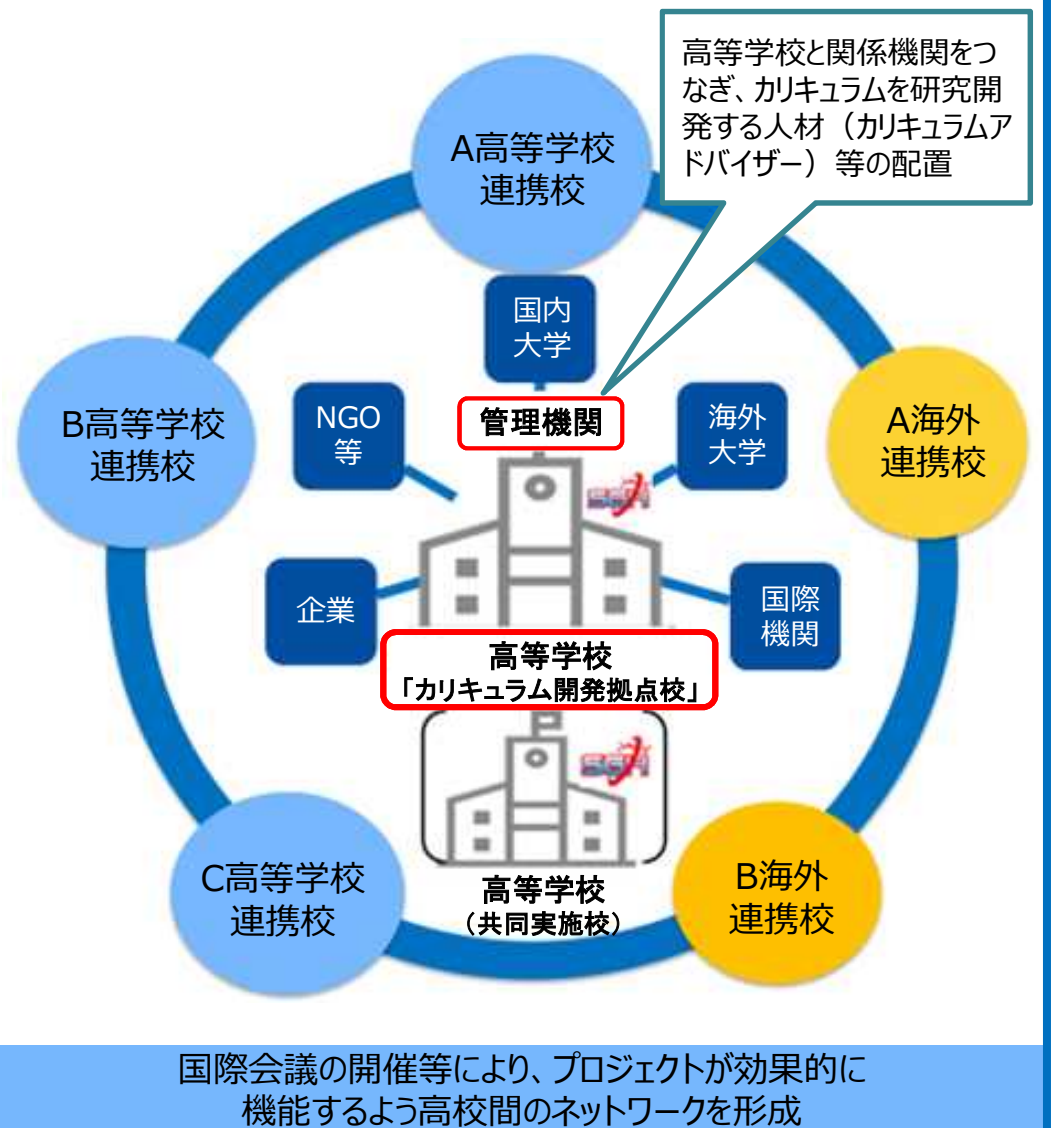
#### ■カリキュラム開発拠点校(文部科学大臣指定校)の概要(令和2年4月現在)

- 対象学校：大臣指定を受け先進的なカリキュラム開発を行う高等学校等
- 指定期間：原則3年(3年目の評価に応じて延長可)
- 指定校数：22校(R2新規指定：12校・R元継続指定：10校)

#### ■調査研究委託：1件(事業の評価・検証・成果普及等について調査研究)

- 委託先：民間団体

### 「アドバンスト・ラーニング・ネットワーク」のイメージ



今後、「カリキュラム開発拠点校」を中心としたアドバンスト・ラーニング・ネットワークを形成した拠点を全国50か所程度配置し、将来的にWWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアムの構築へとつなげる